

# 令和7年度 北海道網走南ヶ丘高等学校 定時制課程 学校評価票(まとめ)

令和8年2月 実施  
北海道網走南ヶ丘高等学校 定時制課程

## 1 学校教育目標

- 1 国家及び社会の有為な形成者として義務と責任を重んじ、己を磨く態度をはぐくむとともに、自主自立の精神を養う。
- 2 豊かな心と健やかな体をはぐくむとともに、奉仕と勤労を尊び行動・実践する力を養う。
- 3 探求心と向上心を培い、課題解決に必要な学力をはぐくむとともに、明澄で端正な生き方を希求する態度を養う。

## 2 目指す生徒像

- なにごとに対しても真摯に取り組む生徒
- 素直な心を持ち人に対して思いやりのある行動ができる生徒
- 社会のルールを重んじ、自ら規律を守る生徒

## 3 スクール・ミッション

オホーツク管内斜網地区唯一の定時制高校として、生徒の多様なニーズや地域の期待に応える学校づくりを推進し、生徒の豊かな心と健やかな体をはぐくみ、社会に貢献できる指導的役割を担う人間を育成します。

## 4 スクール・ポリシー

〈グラデュエーション・ポリシー:卒業の認定に関する方針〉 1 なにごとに対しても真摯に取り組む生徒:誠実さと努力 2 素直な心を持ち、人に対して思いやりのある行動ができる生徒:友愛と信頼 3 社会のルールを重んじ、自ら規律を守る生徒:秩序と自律  
 〈カリキュラム・ポリシー:教育課程編成・実施に関する方針〉 生徒一人ひとりの能力・適性・進路などの特性に応じ、特別活動の精選を図り、主体的・創意的な態度を育てるための教育課程編成を行い、創意工夫を生かした教育課程の実施と評価に努める。  
 〈アドミッション・ポリシー:入学者の受け入れに関する方針〉 ・進路等、将来の目標と自ら学ぼうとする意欲を持った生徒 ・生徒会活動や学校行事、部活動等に主体的に参加し取り組む生徒 ・働きながら学ぼうとする意欲を持った生徒

### \* 評価の規準 \*

#### 【改善に向けた取組の適切さについて】

- 4 (十分な効果が期待できる)
- 3 (ほぼ十分な効果が期待できる)
- 2 (あまり効果が期待できない)

## 4 学校評価を行う内容(重点事項他)

領域	No	評価の観点	教員評価	保護者評価	生徒評価	成果と課題	改善の方策	学校関係者評価	
								改善に向けた取組の適切さ	
学習指導	1	生徒の学習意欲の高揚を図り、学習習慣の定着に努めた。	3.4 (3.4)	3.5 (3.4)	3.4 (3.4)	【成果】 ・観点別評価の充実を図り、生徒の発表活動や成果物を評価する機会を充実させることができた。 ・ICT機器を活用し、生徒が活躍できる場を取り入れた授業を行うことができた。	・協働的な学習活動の工夫・改善に取り組む。 ・校内研修の充実及び校外研修への参加に取り組む。 ・基礎基本の重視のための協働的な授業内容の充実を図る。	3.2 (3.4)	
	2	授業内容を精選し、理解しやすい授業を行うための授業の工夫改善に努めた。	3.4 (3.4)	3.5 (3.5)	3.4 (3.5)	・発表活動において、生徒同士で評価する取組を行うとともに、複数の教員等による評価を行った。 ・評価の改善により、各教科で創意工夫した授業の改善が図れた。		3.8 (3.8)	
	3	生徒の実態を踏まえ、意欲的な学習ができるよう、観点別評価などの評価方法の工夫・改善に努めた。	3.3 (3.3)	3.6 (3.5)	3.3 (3.5)	【課題】 ・家庭での学習習慣の定着化 ・人前で発表することへの苦手意識の克服		3.4 (3.8)	
	4	生徒の学力の実態を把握し、学力向上の推進に努めた。	3.3 (3.7)	3.6 (3.6)	3.4 (3.4)	・生徒の個々に適した学習内容の充実 ・地域社会との学習を更に高める。		4.0 (3.8)	
<学校関係者からの意見>									
生徒指導	5	社会生活を営むうえで、自ら考え行動できる生徒の育成に努めた。	3.3 (3.1)	3.6 (3.3)	3.3 (3.5)	【成果】 ・外部機関と連携した体験活動(避難訓練、防犯教室、防災教室等)により、危機管理の意識を高めることができた。 ・学校外の人と関わる行事の活動を通じて、他人の気持ちを考えて行動できる姿勢が身に付いてきた。	・学校生活の中で、一層、規範意識を高められるような取組の充実を図る。 ・自主的に学校生活に取り組めるような活動の充実を図る。 ・他者との適切なコミュニケーションが図られるように、自分と立場の違う人と関わる機会の充実を図る。 ・スクールカウンセラーなどを活用し、生徒・保護者に対応していく。	3.2 (3.6)	
	6	法やルールなどの規範育成の涵養を育成し、時間や約束を守らせる態度の育成に努めた。	3.6 (3.7)	3.5 (3.4)	3.4 (3.5)	・全校集会等を活用し、繰り返して学校のルールや社会人マナーについて意識を高めることができた。		3.8 (3.8)	
	7	自己本位にならず、他人と協力・協同していくため、様々な場面で望ましい人間関係の在り方の育成に努めた。	3.2 (3.7)	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)	【課題】 ・情報モラル教育の一層の充実を図り、SNS等の正しい利用についての規範意識の高揚。 ・家庭生活を含めた基本的生活習慣の確立及び維持。		3.6 (3.6)	
	8	情報化社会に対応したネットワークの利用に係る適切なマナーの育成に努めた。	3.3 (3.6)	3.4 (3.5)	3.5 (3.5)	(本人のお困り感・保護者のお困り感をスクールカウンセラーおよび、専門機関の協力もいただきながら対応していく。)		3.8 (3.8)	
<学校関係者からの意見>									
生徒会活動	9	生徒会活動を通じて将来の主権者としての経験を積み、様々な機会・役割を通じて充実感と責任感の醸成を図ることを育成した。	3.0 (3.1)	3.6 (3.3)	3.4 (3.4)	【成果】 ・生徒一人ひとりが生徒会行事に前向きに取り組むことができた。 ・学校祭においては、生徒が中心となって運営することができた。また、食育活動では、地域の方々の力を借りて内容等の工夫・改善を図ることができた。	・教師主導から生徒主体の生徒会行事の企画・運営がよりできるように支援の手引きの作成。 ・在り方について引き続き改善を図る。	3.6 (3.6)	
	10	生徒会活動を活発化させ、学校生活を充実させるとともに、学校への帰属意識を高める態度の育成に努めた。	3.1 (3.1)	3.4 (3.4)	3.4 (3.4)	【課題】 ・学校祭について、今後も多くの人々に生徒の頑張りをみせることができるような企画・運営を図っていく。		3.8 (3.6)	
<学校関係者からの意見>									
進路指導	11	働きながら学ぶ誇りと意欲を持たせ、望ましい勤労観・職業観の育成に努めた。	3.2 (3.2)	3.4 (3.4)	3.4 (3.4)	【成果】 ・進路ガイダンスを開催により、進路目標の育成ができた。	・外部講師による進路講話や体験会の充実。 ・3年間または4年間を見通した進路の手引きの作成。 ・今後もインターンシップの充実に取り組む。	3.2 (3.6)	
	12	自ら進路目標を設定し、進路実現に向けて具体的・継続的に努力する態度の育成に努めた。	3.3 (3.3)	3.5 (3.4)	3.5 (3.4)	【課題】 ・社会の中で自立するために、生徒が自主的・積極的に進路活動に取り組めるような仕掛けづくり。 ・多様化している生徒のため、進学、就職の進路の幅が一層広がり、今後も引き続き進学指導も含め、より全日制や関係団体との連携強化が必要。		3.8 (3.8)	
	13	生徒の将来像を実感を持たせるために、進路ガイダンス等を通じて、スキルアップを向上させ、キャリア教育の充実を努めた。	3.3 (3.7)	3.6 (3.4)	3.5 (3.3)			4.0 (3.8)	
<学校関係者からの意見>									

領域	No	評価の観点	教員 評価	保護者 評価	生徒 評価	成果と課題	改善の方策	改善に向けた取組の 適切さ
健康安全指導	14	生命尊重のための安全教育を実施し、危機管理と事故の防止に努めた。	3.7 (3.4)	3.5 (3.5)	3.5 (3.6)	【成果】 ・外部機関と連携したケース会議等を実施することにより、問題を抱える生徒へ包括的な支援を行うことができた。 ・安全教育に関係した行事を実施することができた。	・いじめやネットトラブルに関する取組や活動の機会を増やすとともに、全校集会等での啓発の充実に努める。 ・今後も、コミュニケーションスキルを高める取組の充実に図る。	3.8 (4.0)
	15	教育相談等の取り組みを通じて、自ら主体的に心と体の健康を維持できる能力の育成に努めた。	3.6 (3.6)	3.5 (3.5)	3.5 (3.4)	【課題】 ・生徒自らが自発的・日常的に危機管理を持ち、健康安全な生活を継続して送れるような取組の充実。		3.8 (3.8)
	16	いじめを許さない指導や意識啓発、ネットトラブル等に係る指導の充実に努めた。	3.6 (3.6)	3.5 (3.6)	3.6 (3.5)	・望ましい人間関係について、生徒が自ら考え行動できる取組の充実。		3.8 (3.8)
<学校関係者からの意見>								
信頼される学校づくり	17	学校課題を明確にし、組織活性化に向けて、改善や参画体制について積極的に取り組んだ。	3.6 (3.4)	3.5 (3.4)	3.4 (3.4)	【成果】 ・カリキュラムマネジメントを活用した組織の活性化を図ることができた。 ・学校だよりの発行、広報紙を活用した情報発信、ウェブページの更新の充実に図ることができた。	・広報紙や定時制ホームページなどを通じて、定時制の情報発信を積極的に行い、生徒募集につなげていく。 ・ボランティア活動や地域の行事に積極的に参加して、定時制の広報活動に努める。 ・人とのつながり、社会とのつながり、人間と自然とのつながりを意識させていく。	3.4 (3.6)
	18	魅力ある定時制教育を推進するために、学校通信(南定だより)やホームページ等で、家庭や地域への情報提供を積極的に行った。	3.8 (3.4)	3.6 (3.4)	3.4 (3.4)	【課題】 ・地域関係機関と教育活動の連携の一層の充実に図る。		4.0 (3.6)
<学校関係者からの意見>								
資質向上	19	研修等を通じて絶えず研究と修養に努め、研修成果の吸収と還元を図っている。	3.4 (3.4)	3.4 (3.3)		【成果】 ・校内研修などで生徒の集団づくりや教育課程についての研修 ・交通安全の励行と法令遵守の保持(事故件数ゼロ)	・外部研修を研修成果として校内への報告と還元を努める。	3.4 (3.6)
	20	交通法規等の法令を遵守するとともに、体罰防止等の服務規律の保持に気をつけている。	3.8 (3.9)	3.6 (3.5)		【課題】 ・校内研修の定例化と特別支援教育の生徒理解を一層進める。		3.8 (3.8)
<学校関係者からの意見>								
働き方改革	21	業務内容の見直しや定時退勤により、時間外勤務の縮減に努めた。	3.6 (3.3)	3.5 (3.4)		【成果】 ・ほぼ全員が定時に退勤をして、時間外勤務の縮減を行った。	・ICT機器の活用による業務改善の確立 ・日常から情報交換や相談ができる職場づくりに努める。(忙しい人に協力できる体制づくりを目指す。)	3.8 (3.8)
	<学校関係者からの意見>							
全体評価								3.7(3.7)